

② 活動の実際

<実践1:カレー作り>

10月の土曜日に父親対象のカレー作りを行いました。

子ども達に人気のメニューであるカレー。ルーの作り方を伝えたいとカレー作りを計画しました。

8名の参加でした。

参加の理由は家のカレーはあまり食べないのに、園のカレーはおかわりして食べているらしいので家でも作ってあげたいとの事。家庭でやり慣れているお父さんもいれば、あまり料理などしたことのないお父さんもいましたが、子どもの話や料理の事、おいしいお店の話や仕事の話など楽しい雰囲気の中でできました。

できあがったらやっぱりおいしいカレーでした。みんなでいただきますをして食べました。そして他のメニューも計画して欲しいとの声が聞かれました。

参加したいが土曜は仕事で忙しいというお父さんもけっこういました。母親対象も計画しましたが、保育がないという点でなかなか集まらず中止となってしまいました。

<実践2:試食会>

日頃のありのままの姿を見てみたいと言う声が多く、乳児は秋に保育参観を実施しています。日程設定にも幅を持たせ、保護者が参加しやすい形式にするよう心掛けています。合わせて個人面談も行い、保護者と保育園との共通理解を深めていく貴重な機会になっています。そしてもう一つ実践していることが“試食会”です。我が子の食べる様子を

見た後、子どもたちと同じ給食と一緒に食べていただきます。

子ども達も嬉しそうにし、保護者同士も和気あいあいとした雰囲気です。

「思ったより薄味ですね」「よく食べるんですね」「座って自分で食べているんですね」などの素直な声が聞かれます。食育掲示板で試食の様子を載せたりもしました。

保育参観での試食



③ 評価・反省

保護者へ向けて発信した事で、カレー作りでは次回への期待も高まったり、園の給食への関心が向けられました。

また掲示板からは、

- きれいに整えて食事をする習慣に感謝です。家でも真似をしてお花を飾ってみました
- 「テーブルクロスって知ってる?」「お花を飾るんだよ。」と子どもが言います。ランチオンマットを購入して満足して食べています。保育園の影響ですね。家でも余裕を持ちたいです。
- 食材に対する興味関心が上の子達とは全く違う。食育のおかげだと思う。

などの感想が寄せられ、保育園での活動を知らせる事に留まらず、家庭での食事を豊かにするきっかけとなりました。

3) 地域との連携

	種・苗屋	地域の農家
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培を専門としている人からじゃが芋の種芋の植え方を教えてもらう。 ・栽培に期待感を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・畑に実際に育っている野菜を見たり触れたりしながら関心を深める。 ・農家の人との関わりを持つ。 ・豚汁作りに期待感を持つ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃが芋の植え方を教えてもらう。 ・どうやって、育っていくかを教えてもらう。 ・栽培の仕方を教えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豚汁に必要な野菜を買いに行く。 ・畑の野菜を見たり、掘る様子を見たり触れたりしていく。

年齢	4歳児	3・4歳児
子どもの育ち	お店に行き、そこでお店の方から話を聞く事で関心が広がったようであった。目の前でじゃが芋を包丁で切りながら植え方の話をしてもらったがとても興味深そうに聞く姿があった。話を聞いた後は自然に感謝の言葉が聞かれた。	実際に畑に育つ野菜を目にしたたり、掘る姿を見たり、泥がついた野菜を手にする事で野菜、栽培についての興味関心が深まった。農家の人と直接かかわる事で感謝の気持ちを持った。農家の方に声をかけてもらう事で豚汁作りへの期待が高まった。
活動の在り方	保育者以外の人から話を聞く事で新鮮な気持ちで取り組む事が出来た。地域の中で新たな関わりを持つきっかけとなった。	畑の野菜を通し、農家との関わりを持つことが出来た。
課題	今後、じゃが芋を育てる中で出た疑問をお店の方に聞いたり、畑を見てもらったりする中で、関わりを深めていきたい。	散歩の際などに畑やお店に立ち寄り、声をかけ親しみながら関わりを深めていきたい。

栽培や豚汁作り等、調理保育に向けて、地域の農家やお店やさんとの関わりを持ってきました。昨年の経験を活かし、今年は更に広げ、関わり方も深める事が出来ました。保育園という守られた社会から外へ目を向け、地域との交流を重ねる中で、特別な存在となり子ども達は親しみを感じてきています。園の周りの環境の変化も著しく農家も減少傾向にあります。改めて地域に目を向け、一歩踏み出す事で農家の方との交流や食を通して地域を身近に感じる事が出来たのではないかと思います。今後は、今までの交流を基に、継続して関わりを持ち、深めていきたいと思えます。

豚汁の買い物で実際に大根を抜かせてもらいました



4) 子育て支援(地域の子育て家庭)にむけて

① ねらい


- 保育園を拠点にした子育て支援を展開し、家庭で育児をしている保護者にも食育の機会を持ってもらう。
- 季節の行事を親子で楽しんでもらう。

② 活動の実際と評価・反省

<実践例: 季節の行事への参加>

最近は大気汚染などの環境問題やさまざまな事情から、家庭で焼芋やもちつきなどを行うことが難しくなっています。旬の食を楽しみ、伝統行事を伝えていく機会を地域の親子に提供するため、保育園の行事に合わせて計画し、参加を募りました。

	参加方法	参加親子	参加者のすがた
焼芋 11月7日	火種ができた所へ親子で持ってきたさつま芋を投げ入れてもらいました。	17組 川崎市認定保育所 20名	焼きあがるまで焼く様子を見てもらったり、遊んだりして待ってもらいました。 地域の方が休める場所にシートを敷き、焼きあがったさつま芋を親子で食べてもらいました。 近隣とはいえ、顔見知りでない人同士が同じシート上で同じ焼き芋を食

			べることで和やかに話している様子でした。
もちつき 12月13日	もちつきの様子を親子で見た後、つきたてのもちを試食してもらいました。(材料代のみもらう)	10組	あいにくの雨天で、もちつきの様子はゆっくり見られませんでした。試食場所として玄関に椅子とテーブルを準備しました。家庭ではなかなか食べる機会のないつきたての餅に親子で舌鼓をうっていました。また参加者同士の会話も弾んでいました。

友達同士で参加する人もいますが、同じ場所で同じものを味わうことで話も進み、あまり交流が持てないもの同士も交流が持て、人のつながりの場となっていくのではないかと感じました。

今後も、地域の人にもっとも身近に感じてもらえるような取り組みを継続していこうと考えています。

<実践例: 栄養士講座の開催>

園独自で年度当初に作成した地域支援活動年間計画の中で企画しました。

月～土の午前中に行っている園庭開放の中で、毎週木曜日に職員によるミニ講座「遊び紹介」を実施しています。園庭開放に来ている地域の親子に、保育士が順番に手遊びやパネルシアターを行い、保育相談などを受けるのが主な活動です。毎回10組前後の参加があります。

その中で6月と1月に、栄養士によるミニ講座を企画しました。

	内容	参加親子	参加者のすがた
6月21日	牛乳とジュースによるカルシウムの比較 (食育媒体「カルちゃん」を使用)	2組 2人	参加人数は少なかったが集中して聞いていました。 講座後は水分補給に関する相談が多かったです。
1月10日	野菜・果物の断面当てクイズ (食育媒体「野菜のおなかパネル」を使用) 風邪を予防する食事について (栄養士がリーフレットを作成・配布)	9組 14人	クイズは楽しんで答えていました。 風邪予防については親向けになり、子どもは飽きるのでリーフレットを作成したのは良かったです。 妊婦の参加もあり、講座後は妊娠中の鉄分補給についての相談もありました。



↑ パネル「野菜のおなか」



「遊び紹介」のひとつとして開催したことで、気軽に参加してもらえました。企画は保育士と栄養士が話し合っ行って、導入・進行を保育士が担当したおかげで講座全体を和やかに進行することができました。複数職種がいる園ならではの連携と言えます。

日ごろ園庭開放に参加している親子は3歳児未満児が多いので、合わせた内容を考えて実践しました。結果として対象に合った内容になり、効果的でした。また季節的に合った内容であったのも良かったと思われる。

講座後は栄養相談もしやすい雰囲気になり、普段改まっては聞きづらい人も話しやすそうでした。栄養相談件数がさほど多くないことを考えると、講座を実施することは栄養相談の機会を提供する上でも効果的だと思います。またこのような機会を通じて保育園栄養士の存在を身近に感じてもらえることが、地域に関わる第一歩だと言えます。

<実践例:地域情報紙「スマイル」の発行>

園独自に年度当初作成した地域支援活動年間計画の中で企画しました。

地域の子育て家庭を対象にして年5回作成し、保護者・近隣の医療機関・嘱託医・地域保育所・子ども文化センター・保健所・市民館で合わせて約300部の配布をお願いしました。さらに散歩中にも出会った親子に手渡しし、地域に密着した保育園を目指しています。

内容は園の行事や子育てワンポイントアドバイスなどが中心ですが、行事にちなんだ料理や給食の人氣献立も載せて地域への食育情報提供にも努めました。

来年以降も栄養士・調理員が作成に関わりながら、家庭でもつくれる簡単なレシピを紹介していこうと考えています。

<実践例:高津区としての取り組み「1・2キッズ」への協力>

「1・2キッズ」は、毎月1回市民館で開催されている地域子育て支援事業です。

親同士のつながりを持つ場を提供するねらいを持つ事業で、市民館が駅前で交通の便が良いこともあり、いろいろな地域から多数の参加があります。

その内容の企画・実施を園長と保育士1名が担当しました。

1月には風邪予防の食事についてのワンポイントアドバイスも配布し、食育の面からの情報提供も行いました。

地域支援活動年間計画書

平成19年度 地域支援活動計画 担当 雨宮・高橋・古賀・蛭名

担当仕事内容

- 「遊びの広場」計画・実施・ポスター掲示・アンケート集計 他 (各担当)
 - 地域へ向けてのお知らせ、各行事のポスターの作成・掲示 (各担当)
 - 園庭開放利用者箱の準備・整理・おたよりの補充 等 (雨宮)
 - 地域支援状況報告書の作成 (古賀)
 - 絵本貸し出し集計 (高橋)
- 「あそびの広場」…各園での地域支援事業。年4回実施。担当者1~4名で開催。
- ① 6月6日(水) 「運動遊び」オフィスAcorn (佐藤先生) 担当・蛭名
 - ② 10月中旬 「ミニ運動会」 担当・雨宮
 - ③ 11月 「ミニお話し会」 担当・古賀
 - ④ 1月 「室内遊び」 担当・高橋

*地域支援事業費4万円は①に使う(申請書類あり)

月	地域によびかける行事	遊び紹介担当	地域広報紙「スマイル」
5	23(水)移動動物園	ぞう(大谷・岸)	5月上旬発行 蛭名・湖山・小久保・吉田
6	遊びの広場①	ウサ(藤谷屋・小久保) *栄養士	6月下旬発行 雨宮・大谷・前野・中村
7	21(土)納涼会 水遊び(ビニールプール)	あひる(宮・吉田) *看護師	
8			
9		ほと(木内・前野)	9月下旬発行 蛭名・戸坂・木内・藤田
10	13(土)運動会 中旬 遊びの広場②	ひよこ(古賀・戸坂・江口)	
11	7(水)焼き芋 遊びの広場③	きりん(湖山・中里) *看護師	11月中旬発行 古賀・藤田・宮・田・松山
12	13(木)もちつき	地域担当(蛭名・高橋)	
1	遊びの広場④	地域担当(雨宮・古賀) *栄養士	1月上旬発行 高橋・江口・藤谷屋・中里・中田
2	6(水)7(木)ごっこ遊び	らいおん+地域担当(藤田・蛭名)	
3		ウサ(藤谷屋・小久保)	

- > 行事への誘いのポスターは地域担当が交代で作成する
- > 遊び紹介は毎週水曜日11:45~12:15 終了後、引継ぎノートへ内容を記入する。
- > 看護師・栄養士によるミニ講座を年2回ずつ行う。担当月のメンバーで日程を調整。
- > スマイルは作成から配布までをメンバーで分担して行う。配布場所と数は別紙参照。
- > 水遊び担当は雨宮
- > 「遊んでみよう保育園」担当は蛭名

高津区としての取り組み

遊びの広場1・2キッズ…茂木園長・蛭名(高津市民館、毎月第4火曜10:00~11:30)

4. まとめ

上作延保育園では、日々の保育を大事にしていこうと取り組んできました。

栽培物を育て、収穫、調理保育を通して子どもの発見や感性に触れ、職員同士の意識も高めていくことで、保育の中の食育が生きてきたように思います。

計画を全体で確認した事で、各クラスの様子や状況も見えるようになりました。

集団としての食事をどう捉えるか、職員間でも何度も話題になりました。その中で確認された事は、乳幼児の食事とは、慣れた空間でその子をよく知る大人が介助や援助をしたり、一緒に食べることで子ども達は安心して食事に向かうことができ、マナーが身についていくのではないかとのことでした。

年度の後半には、時には異年齢で会食をしたり、食事の時間が選べたり、バイキングなども行いました。そのなかで気付いた事は、子ども達が食べたいものを自分でしっかり選んで食べ、マナーも身につけ、楽しんでいる姿でした。

それぞれの園の特性、子どもの様子を考慮してそれに合った食育の取り組みが自然にできるということが大切なのではないかと実感しました。

<食育実践を通して>

- 食育は保育の一環である事
- 子どもの生活と切り離せない事
- 生活の基盤になる事

職員の意識も変わってきており、保育の中で食育の気づきができるようになったと思います。

一緒に食べたい人がいる。話しながら楽しい雰囲気の中で食に興味や関心を持ち、食事のマナーが身につけられる。モデル園になったことを土台にしてさらに食育を自然に保育の中に取り込み、家庭へ発信し続けていきたいと思っています。

IV. 川崎市戸手保育園

1. 保育所の保育目標

〈方針と特色〉

大人との信頼関係をもとに、一人ひとりを大切にされた保育を進めています。子どもが安心できる環境の下で、色々な遊びを楽しみ豊かな、心を育てること、また、集団の中で一人ひとりの子どもの持っている能力や要求が出せ、友達と遊ぶ楽しさを味わうことができることを目標としています。そのために、日々の保育の積み重ねを大事にし、保育活動にいかしています。

具体的な取り組みの一つとして、食育(ランチルーム)を位置づけ、異年齢との交流を深め、思いやりや、憧れの気持ち、考えて行動できる子を育てることを目指しています。ランチルームでの取り組みからうまれる、一人ひとりの意外性、出来事を大事にし、期待される子ども像をめざし、日々実践に取り組んでいます。

〈戸手保育園の子ども像〉

- 元気な子、楽しく食べられる子
- 素直で、思いやりのある子
- 考える子、約束を守れる子

2. 保育所における食育の計画づくりの方針

1) 食育の位置づけについて

子供達の成長発達段階を十分留意しながらさまざまな体験を通し、“生きる喜び”“生きる力”を育てていきたいと考えています。「食育」中心に保育士のみならず全職員で、全ての「子ども」の成長発達を願って日々、保育を実践しています。幼いうちから、「食を営む力を育む」ことは、子どもたちが自分自身で健康に生活できるよう力の基礎を培おうとするものと考えます。

- ・お腹がすくりズムのもてる子ども
- ・食べたいもの、好きなものが増える子ども
- ・一緒に食べたい人がいる子ども
- ・食事づくり、準備にかかわる子ども
- ・食べものを話題にする子ども

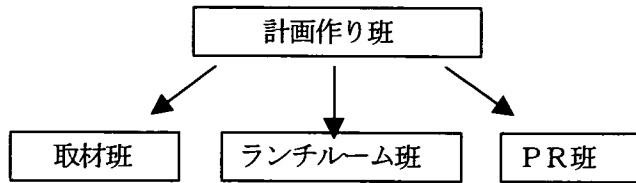
「期待される5つの子ども像」をめざし取り組みます。家庭でも食育の関心を高めることを共に進めていきます。「子どもから家庭へ、そして地域へ」と食育活動が広がり、保育園が発信拠点となれるよう日々努力しています。

〈食育の目標〉

保育目標の中に食育の目標「元気な子、楽しく食べられる子」を設けました。保育そのものが「食育」というイメージで捉えて、保育計画、指導計画へ反映させました。

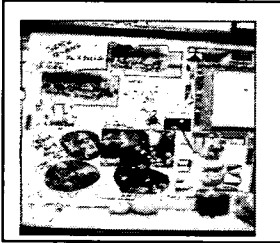
計画づくりにおいては、「食育」をひとつの内容の項目にしたり、食育計画として別に立てたりするのではなく、今ある各年齢の年間指導計画、月の指導計画に食育の視点をふまえた内容に青色のアンダーラインを引いて、食育を意識して保育していくことにしました。そうすることにより、「保育」＝「食育」ということを明確にししながら、保育を通して食育をすすめていくことができました。

2) 職員間の協力体制づくりの工夫



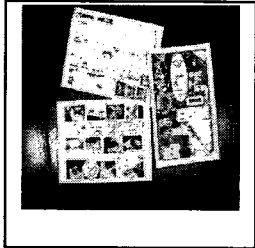
今年度、職員を目指していたものは、「自園の計画書」作りです。全職員が4つのプロジェクトに所属し、今年度4月より、1ヶ月1回の打ち合わせに入りました。

* 取材班 保育士4名(臨職1)



仕事内容・各クラスをつぶやきメモファイル配布・回収・取材
意見箱の意見掲示・取材・記録
他班との連携による取材(例 おひつ・姿勢について学び提案)
行事後や感動場面のインタビュー
保護者向けの、ビデオ撮り、写真撮り等

* PR班 保育士2 看護師1 用務2



仕事内容・掲示物(保育の紹介・栽培・収穫物の紹介・誕生日ランチ(幼児)
班独自のおたより「つぶやきあれこれ」の発行
～園と家庭とで情報をキャッチボール出来るもの～
ホームページ作成
アンケートの実施(保護者向け)
*アンケート集計途中

* ランチルーム班 保育士4 (非常勤1)調理員1



仕事内容・幼児・乳児1、2歳児・0歳児のランチルーム情報交換
問題提起・分析・実践・効果反省を行いながら見直し
(職員の声を拾う事を心がける)
保護者向け、ランチルームビデオ上映会実施

* 計画書作り班 保育士4 栄養士1

仕事内容・実践内容を持ち寄る、保育目標、めざす子ども像に向かっているかの
調整を図る
様式について検討、月案、週案に下ろしやすい計画書作りを心がけてい
る


今年度実践を基に作り上げてきた計画書は、今後も子どもの興味、関心等実状に即し柔軟に修正計画し、より具体的に月案、週案におろし保育に生かせるものとしていきたいと思ひます。


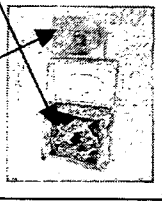

3) ランチルームを通しての食事指導計画(過程)書

3才~5才オクラス

戸手保育園

保育目標
 *元氣な子、楽しく食べられる子
 *素直で、思いやりのある子
 *考える子、約束を守れる子

項目	ねらい・内容	3才	4月	6	7	9	10	12	1	3月	4才	5才	6才
食と健康	<p>一 お腹が空くほどの前まで食べて</p> <p>*お腹が空いたら自分でランチルームに行き食事する</p> <p>*自分の適量を知りながらいろいろな食べ物を進んで食べる</p> <p>*健康と食物の関係や基本的な習慣や態度を身につける</p> <p>・好きなものをおいしく食べる</p> <p>・慣れない食べ物、嫌いな食べ物にも挑戦する</p> <p>・自分の健康に関心をもち必要な食品を摂ろうとする</p>	<p>・11:30~一部屋で手洗い、うがい、着替えを済ませ一斉にランチルームに入る。</p> <p>・苦手な物は残したり、減らしてもらおう</p> <p>・ランチルームでの生活習慣を知る</p> <p>・手拭はペーパータオルを使用</p> <p>・歯磨きコーナーで歯磨きをする</p> <p>・汚れた手や口の周りをティッシュできれいに拭く</p> <p>・備え付けの卓上ゴミ箱に捨てる</p> <p>食後・サブルームの着替えコーナーで着替えた後くつろぎスペースで過ごす *図1</p> <p>・背中は伸ばして食べる</p> <p>・排便リズムの大切さを知る</p>	<p>2Gに時差をつけ準備の済んだ子から順次ランチルームに入る。</p> <p>・苦手なものも1口食べる</p>	<p>ベルの合図でおなかの空いた子より自分で準備を済ませランチルームへ向かう</p> <p>・慣れない食べ物にも挑戦する</p>	<p>ベルの合図</p> 	<p>テラスで手洗い、うがいを済ませ、着替えはサブルームで済ませる</p> <p>・食べ物と身体の関係に関心をもちつ</p> <p>・苦手な物や減らした物、量を伝えたり、自分で行う</p> <p>・自分で盛り付けたものを残さず食べようとする</p> <p>・苦手な物でも自分の健康に関心をもち残さず食べようとする</p> <p>・食物の匂い嗅ぎに気がつく</p>	<p>4才 調理室</p> <p>5才 調理室</p> <p>6才 調理室</p>						
	<p>・3歳は担任(2人)が中心になり一人ひとりの様子を把握指導する</p> <p>・4, 5歳についてはリーダー保育士が中心に把握する</p> <p>・3歳児が自分で判断、準備する余裕を持たすためにランチルーム開店の合図を10分早め(11:45とする)</p> <p>・盛り付け量の違う皿(小皿や盛り付けの多少)から自分の食べられる量を選ぶようにする</p> <p>・背中を伸ばし、足を床に下ろし姿勢よく食べられるように言葉かけや絵カードを提示する等で意識を持たせる</p> <p>・カーテンを早めに開け、目覚めを促し自立起床するリズムが身につくようにする</p> <p>・栄養士、看護師からの指導を取り入れ健康と食の関係を持たせる</p> <p>(著について、元気な骨、繊維の話し、食べ物と体の話し)「食べ物と体の話し」について</p> <p>・一人一人の健康状態に合わせ無理強いない。配慮食の必要なケースについては、(記入用紙)に記入してもらい、栄養士看護師と検討</p> <p>・ランチルームマップは専用布で拭いて片付けることを教え確認する。週末は消毒液で拭いて日光消毒を保育士が行う。</p>	<p>廊下</p> <p>3歳児室</p> <p>2歳児室</p> <p>事務室</p> <p>給食室</p> <p>5才 調理室</p> <p>ランチルーム</p> <p>くつろぎスペース</p>											

<p>一緒に食べたい人がいても</p> <ul style="list-style-type: none"> *自分で食事ができる *友達と一緒に食べる *担任以外の保育士や調理員、など身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう *異年齢の友達と会食を通して愛情や信頼感を持つ *食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける <p>・身近な大人と食事の話題を共有する</p>	<p>・3テーブルにかたまっても、クラスの中の会食や保護者と食べることを楽しむ</p> <p>・クラス以外の好きな子やクラスの仲間と朝から「一緒に食べよう」とランチを共にすることに期待する</p>		<p>テーブルに3、4人で座り異年齢とも親しみを持って食べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランチマンナットを拭いて片付けるやり方を知り行う  	<p>・気の合う子だけでなく色々な友達と一緒に食べようとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢を意識して食事し、思いやりの気持ちを持ったり、楽しく食べる <p>・こぼしたものを拾って卓上ゴミ箱に入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぼしたら、台布巾やモップで拭く ・食後のサブルームの準備をする <p>・サブルームのゴザ敷き、バジヤマかごの準備を5才より仕事内容を引継いで4才が手伝い行う。徐々にグループでする。</p> <p>2月一年長のランチ当番を見て、手伝う</p> <p>3月一当番を引き継ぎ4歳児で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食習慣やマナーをできていない子に伝え促し教えあう
<p>食と人間関係</p>	<p>・落ち着いた雰囲気を保つ為にも、ランチルームでの動線を吟味し、毎日の繰り返しの中で見通しを持つよう置き場を固定し、表示で明確にする。*図2、3 表2</p> <p>・3才児はランチルームでの流れや習慣を覚えられよう、子どものやろうとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・指導するとき保育士の動きが大きくならないように、3歳児の前半は入り口の3テーブルに集まって食べる。3歳のあと2Gの4、5歳が入る。</p> <p>(5才午睡室となる為、遅くなる子については、配膳台より奥へ移動。又事前に奥へ促す。・食事室から午睡室に変わるところでは、その旨を子どもにも伝え食べ始めるようにしていく。</p> <p>・くつろぎスペースの遊ぶ内容を検討し、計画的に取り入れる。(静かに遊べる素材を意識する。異年齢の関わりを観察)</p> <p>・4歳児は、ゴザ敷等食後着替え室の準備を当番活動の流れの1つとして取り組めるよう、ランチルーム当番への憧れの気持ちを高める</p> <p>・当番活動の引継ぎは、4、5才担任でやり方の工夫をしながら子どもたちの状況を見、余裕を持って行う</p> <p>・自分の事を大事にしようとする気持ちが育ち、主体的に行動できるようにする</p> <p>・摂取量に個人差、偏食が得意な一人ひとりの心身の状態を把握し、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする</p> <p>・自分から食べようとする意欲や自分で考えて行動をすることを大事にする。</p> <p>・ビデオや気付いたことは紙に記入し、意見箱に入れ、随時検討、改善していく</p>	<p>・クラスの雰囲気は、表示で明確にする。*図2、3 表2</p> <p>・3歳児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・3歳児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・3歳児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・3歳児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p>	<p>・落ち着いた雰囲気を保つ為にも、ランチルームでの動線を吟味し、毎日の繰り返しの中で見通しを持つよう置き場を固定し、表示で明確にする。*図2、3 表2</p> <p>・3才児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・指導するとき保育士の動きが大きくならないように、3歳児の前半は入り口の3テーブルに集まって食べる。3歳のあと2Gの4、5歳が入る。</p> <p>(5才午睡室となる為、遅くなる子については、配膳台より奥へ移動。又事前に奥へ促す。・食事室から午睡室に変わるところでは、その旨を子どもにも伝え食べ始めるようにしていく。</p> <p>・くつろぎスペースの遊ぶ内容を検討し、計画的に取り入れる。(静かに遊べる素材を意識する。異年齢の関わりを観察)</p> <p>・4歳児は、ゴザ敷等食後着替え室の準備を当番活動の流れの1つとして取り組めるよう、ランチルーム当番への憧れの気持ちを高める</p> <p>・当番活動の引継ぎは、4、5才担任でやり方の工夫をしながら子どもたちの状況を見、余裕を持って行う</p> <p>・自分の事を大事にしようとする気持ちが育ち、主体的に行動できるようにする</p> <p>・摂取量に個人差、偏食が得意な一人ひとりの心身の状態を把握し、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする</p> <p>・自分から食べようとする意欲や自分で考えて行動をすることを大事にする。</p> <p>・ビデオや気付いたことは紙に記入し、意見箱に入れ、随時検討、改善していく</p>	<p>・落ち着いた雰囲気を保つ為にも、ランチルームでの動線を吟味し、毎日の繰り返しの中で見通しを持つよう置き場を固定し、表示で明確にする。*図2、3 表2</p> <p>・3才児はランチルームでの流れや習慣を覚えられようとする気持ちを大事にしながらゆくりと繰り返して伝えていく</p> <p>・指導するとき保育士の動きが大きくならないように、3歳児の前半は入り口の3テーブルに集まって食べる。3歳のあと2Gの4、5歳が入る。</p> <p>(5才午睡室となる為、遅くなる子については、配膳台より奥へ移動。又事前に奥へ促す。・食事室から午睡室に変わるところでは、その旨を子どもにも伝え食べ始めるようにしていく。</p> <p>・くつろぎスペースの遊ぶ内容を検討し、計画的に取り入れる。(静かに遊べる素材を意識する。異年齢の関わりを観察)</p> <p>・4歳児は、ゴザ敷等食後着替え室の準備を当番活動の流れの1つとして取り組めるよう、ランチルーム当番への憧れの気持ちを高める</p> <p>・当番活動の引継ぎは、4、5才担任でやり方の工夫をしながら子どもたちの状況を見、余裕を持って行う</p> <p>・自分の事を大事にしようとする気持ちが育ち、主体的に行動できるようにする</p> <p>・摂取量に個人差、偏食が得意な一人ひとりの心身の状態を把握し、楽しい雰囲気の中で食べられるようにする</p> <p>・自分から食べようとする意欲や自分で考えて行動をすることを大事にする。</p> <p>・ビデオや気付いたことは紙に記入し、意見箱に入れ、随時検討、改善していく</p>

3才の
#当-コップ
コップ

図2

3才ランチルーム入室の変化

1期	4期	4才
----	----	----

担任と共に準備を済ませ一斉に入室

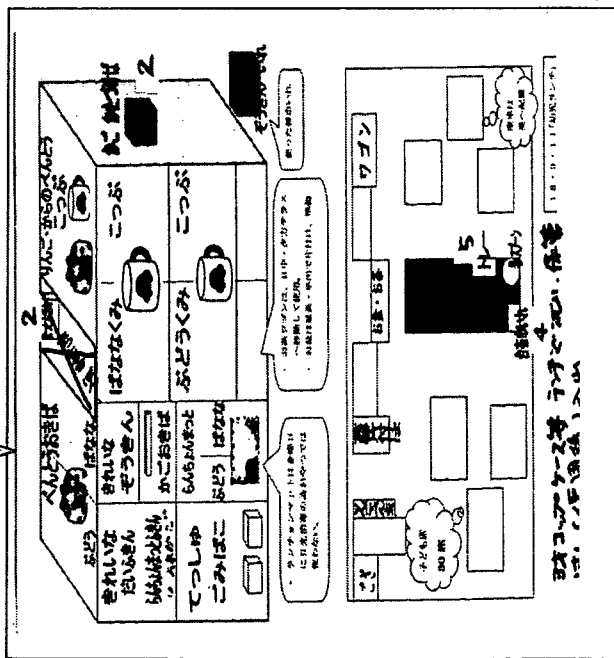
担任と共に2Gで時差をつけて準備の出来た子から入室

おなかの空いた子から、自分で判断して入る

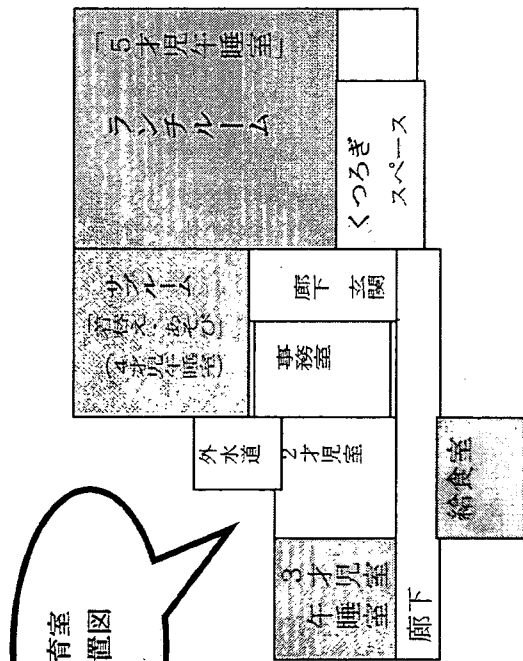
17年一後半より4、5歳中心にランチルーム開始3歳はおやつのみ参加。
18年度-3才: 6名Gのみ4月よりランチルーム参加。他の子どもたちは3才室で食べる
7月よりランチルームに全員参加
19年度-2才の時から時折参加。4期に入りおやつに参加。
3才4月より全員ランチルームに参加

図3

道具置き



1 階保育室 配置図



くつろぎコーナーの計画案

内容	4月	11:15	11:30	12:00
折り紙				
塗り絵				

「くつろぎで使う道具入れ・遊ぶ様子」



— ランチ前後の時間の流れと部屋の使い方 —

11:00 11:15 11:30 12:00 12:30...各クラスに戻る

年長・職員
ランチルーム当番
が準備開始

ランチには入らないがゆっくり
過したい子は、着替えた後
くつろぎスペースで過ごす

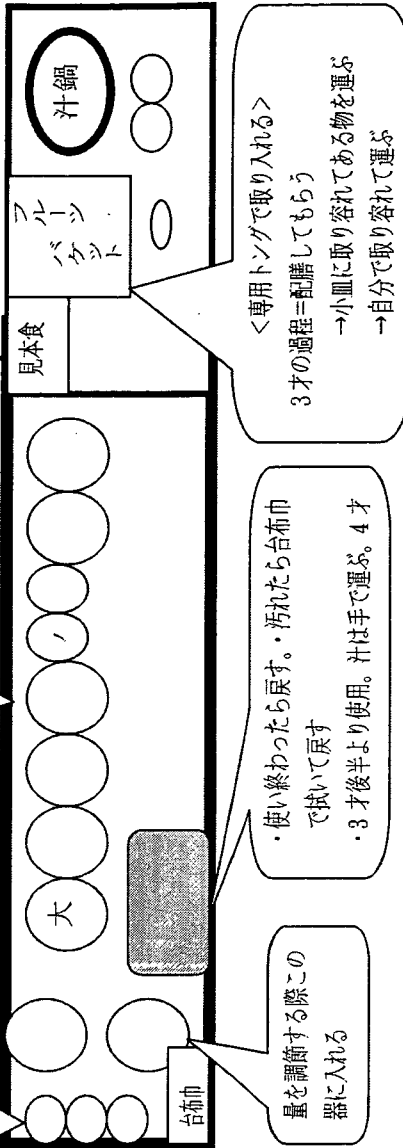
食べ終わった子から、パジャマに着
替えて過す

適量が見えるように置く

・おかず皿はトレイを使いやすく
する為に1列に置く
・盛り付け量の違うものの中か
ら自分で選べるようにする

<園用食具置き場>
ランチ当番がセットで配膳
→3歳が自分で選択して用意
→家庭から箸持参

配膳台の使い方



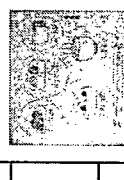

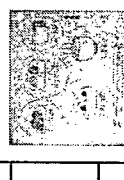

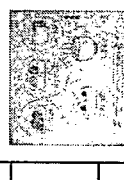


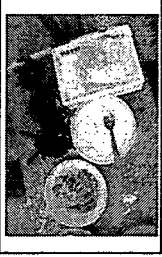


<専用トングで取り入れる>
3才の過程=配膳してもらう
→小皿に取り容れてある物を選ぶ
→自分で取り容れて運ぶ

・使い終わったら戻す。汚れたら台布
で拭いて戻す
・3才後半より使用。汁は手で運ぶ。4才

量を調節する際この
器に入れる

図4

<p>料理と食</p> <p>命の育ちと食</p>	<p>1 食事作りや準備に関わる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> * 食事の準備や片付けに参加する * 食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気で作事する * 自分で料理を選んだり盛りつけたりする * 料理をするのに関心を持つ * 食事の要望を伝える * 見て、嗅いで音を聞いて、さわって味見して、料理を作る 	<p>4月ランチルームに入り、自分の弁当箱のあるテーブル椅子に座る</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月中一弁当箱を自分で持って席に着く 4月中一自分でおかずを取りに行く、食後果物皿を片づける(8月一合同保育時～果物を自分で運ぶ子が出てくる) <p>9月一果物・スプーン等を持ってくる</p>  <p>食事作りの手伝いをする (ソラマメ・とうもろこしの皮むき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内で育った野菜を味わう又、持ち帰り家庭で味わう 小松菜、二十日ダイコン、ゴーヤ、きゅうり、トマト、スイカ 	<p>10月中一弁当は、袋に入れてそのまま、かごに入れて保管、自分で出し入れをする</p>  	<p>準備・片付けはすべて自分で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶を運ぶ 自分で汁椀を両手で運ぶ 残飯は専用ケースに分け器の中をきれいにして片付ける 器は形に合わせる等置き場に合わせておく 	<p>配膳時トレーを使うが汁物は後で2階に分けて運ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長が留守の時、ランチの準備をする 1月一少人数の4歳児を混ぜながら当番を引き継いでいく
<p>2 食生活や健康に主体的に関わる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> * 野菜などの栽培、収穫した食材、旬の物や季節感のある食材や料理を食べる * 自然の恵みと働くことの大切さを感じ、感謝の気持ちも持って食事をする。 * すべての命を大切にすることを身近な動物とふれ合う。自分たちで飼育栽培する 	<p>10月中一弁当は、袋に入れてそのまま、かごに入れて保管、自分で出し入れをする</p>  	<p>準備・片付けはすべて自分で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶を運ぶ 自分で汁椀を両手で運ぶ 残飯は専用ケースに分け器の中をきれいにして片付ける 器は形に合わせる等置き場に合わせておく 	<p>準備・片付けはすべて自分で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶を運ぶ 自分で汁椀を両手で運ぶ 残飯は専用ケースに分け器の中をきれいにして片付ける 器は形に合わせる等置き場に合わせておく 	<p>配膳時トレーを使うが汁物は後で2階に分けて運ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長が留守の時、ランチの準備をする 1月一少人数の4歳児を混ぜながら当番を引き継いでいく 	
<p>3 食生活や健康に主体的に関わる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> * 野菜などの栽培、収穫した食材、旬の物や季節感のある食材や料理を食べる * 自然の恵みと働くことの大切さを感じ、感謝の気持ちも持って食事をする。 * すべての命を大切にすることを身近な動物とふれ合う。自分たちで飼育栽培する 	<p>10月中一弁当は、袋に入れてそのまま、かごに入れて保管、自分で出し入れをする</p>  	<p>準備・片付けはすべて自分で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶を運ぶ 自分で汁椀を両手で運ぶ 残飯は専用ケースに分け器の中をきれいにして片付ける 器は形に合わせる等置き場に合わせておく 	<p>準備・片付けはすべて自分で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶を運ぶ 自分で汁椀を両手で運ぶ 残飯は専用ケースに分け器の中をきれいにして片付ける 器は形に合わせる等置き場に合わせておく 	<p>配膳時トレーを使うが汁物は後で2階に分けて運ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 年長が留守の時、ランチの準備をする 1月一少人数の4歳児を混ぜながら当番を引き継いでいく 	

食と文化	<p>一 食もわかって食べられる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事時がいさつをする ・ 気持ちよく食事をするマナーを身につける ・ 郷土料理に触れ、伝統的な食事を体験する ・ 伝統的な食品加工に出会い味わう ・ 箸などの食具が上手に使える ・ 外国の人々など様々な食文化に興味を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食前後の挨拶をする ・ 器に手を添えたり、もって食べる ・ スプーン、フォークを3点もちで使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月中旬一箸への移行（スプーン等と併用で配膳台から自分で選ぶ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配膳の位置を意識する ・ 11月一家庭から自分の箸を持つてくる(12/19) ・ お皿の中身をきれいに集めたべる ・ 器を片づけるときは残飯を専用容器に入れて片付ける ・ 友達と楽しくおしゃべりしながらも静かに食べようとす ・ 日の中に物が入っている時はおしゃべりはしないことが分っていく ・ ランチルームには静かに入ることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配膳の位置を覚えて行く ・ 箸を3点持ちで使う。 ・ 箸をつかいつまんだり、きつたりする 「秋刀魚の骨とり」 ・ 自分で器の中もきれいにして食べる ・ 食事巾着を立てないよう排せを済ませて席に着く ・ おしゃべりを楽しみながらも一定時間内に食べ終える  
配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ食材を色々な形態や、加工方法で調理してもらい楽しむ 	<p>暖かいものを温かい状態でいただく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ランチルーム当番の「今日の一言」や、絵カードや保育士の合図で意識を促す。「いただきます」の感謝の気持ちを大人が示し、会話等を通して伝える ・ 大人が共に食事をし、使い方を見せたり異年齢の姿に関心がいくように働きかけたり、教えあえられる様にする。 ・ 行事食や同じ食材を違った形態にアレンジや廃棄となりがちな食材の一工夫で食品に加工するなどを通して関心が持てるようにしていく 			

家庭との連携

- ・ 掲示やお便りで伝えると共に、直接、見たり、体験することで、より食に関心を持ってもらえるよう。保育参加を積極的呼びかけ共に進められるようにしていく。
- ・ 食事の準備と一緒にする。箸、食器を並ぶ、片付ける..等また、一緒に調理する
(家庭からのアンケートを見ると3歳児でも手伝いをよくしている事がわかった)
- ・ ビデオ放映会で幼児の姿を見て、こんなことができるようになるの！と感動。わが子の育ちの見通しを持ち理解に一步前進！を感する
(持ち帰った野菜や果物を一緒に調理をする姿が家庭で増えてきている)
- ・ 買い物や散歩等で食べ物や自然を発見し観察する機会を持つてもらおう
(保育園の栽培物を持ち帰ったり、家庭での栽培内容が増えている。園での活動も「統けて欲しい」の声が多くなっている)
- ・ 家族で食卓を囲む機会を作ることを意識してもらい、子どもとの会話を増やしてもらおう
(ランチルーム体験で会食の楽しさや子どもが自分で自分のことをする姿に感動している保護者が多い)
- ・ ランチルームへの参加のみでなく、朝から共に遊び、体を動かして楽しみ、お腹が空いた実感を体験してもらおう
(久々に体を動かす心地よさを感じた！の感想が多い)
- ・ 早起き、朝ごはんの大事さを考えてもらおう
(復きで登園・朝食を食べていない、ウンチが出て無いため気持ち悪いと訴える子が多い、等 気になる姿も多くなっており今後の大きな課題)

***表2 保育士の動き**
4本の動きを交代で行う

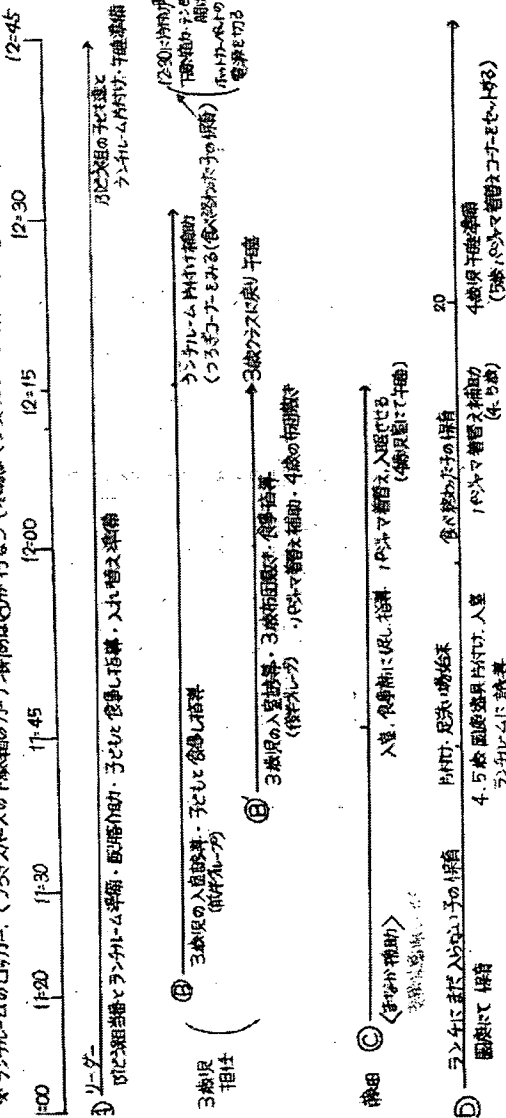
ランチルームの連携

H.19.11改訂版

* ランチルームのテーブルセットは、百だう組担任が子どもで行なう

11:00 百だう組担任... テーブル拭き・ティッシュ・おみそ用器... ランチパン・パン皿・おみそ用器... 3歳児卵が、3歳児卵がらし、コップ入れ選び
(ワゴン運び、3歳児に汁物と母物の配膳、1カレーパンに声かけ、メニュー紹介、20分以内は百だう組担任により
④が行なう)

* ランチルームのロッカー、くつろぎスペースの下部収納のカーテン開閉は④が行なう (冬場はくつろぎスペースの下部収納の電源を入れる) (2=45)



*④、⑤は4、5歳担任が選みかざり行なう
外遊びや入室の際、手、足洗いがいそみする

***表3 <給食室での工夫あれこれ>**

- ・ 削り節のふりかけ
- ・ スイカ解体ショー
- ・ 蒸しパンの色々な形と味
- ・ せんべいのバスケット盛り
- ・ ハート人参でお祝い会
- ・ 煮干の甘辛に、から揚げ
- ・ 熟々卵焼きの切り分け配膳
- ・ セリーの色々型
- ・ 誕生日ランチ

・ 素材本来の良さを引き出す工夫「大きさ、硬さ、硬さ、甘み.....」
など 細かな配慮がなされていました。

<ランチルーム当番の仕事内容>

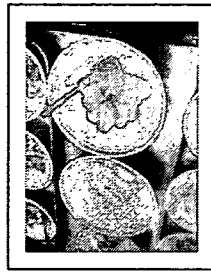
- ・ 自分でエプロン、三角巾を身につける。・ テーブルを拭く
- ・ ランチ用マット、台布を濡らしてかごにセットする
- ・ 3才お弁当箱、コップ入れ、歯ブラシをランチルームに運びセットする
- ・ フォンを取りに行き、メニューを覚える
- ・ 3歳児の座る席に弁当をおき、配膳する
- ・ メニューを発表する。ランチルーム開店の合図をする

* ランチルーム当番については、5月の連休明けまでは担任と一緒に詳しい内容を覚える。

* できない部分を確認や声掛けをし、見守りながら手伝う部分を減らしていく。

<3歳児へのかかわりの過程>

- ・ 3才児の弁当をテーブルに置く。給食を配膳
「3歳児の食器の片づけは保育士が行う」
- ・ 5月〜3歳児の弁当、おかずの配膳なし)
- ・ 10月〜3歳児には汁物のみ配膳



3. 保育所における食育プログラムの実施内容と評価・改善

1) 子どもの食育

(1) 事例 1

4歳児クラス・(男児:7人 女児:8人 計15人)

R, F 男児

5歳9ヶ月 (H.14.5.17 生)

保育暦 0歳より入所—5年目

保育時間 8:30~19:00(時に16:00頃祖母と降園)

家族構成 両親と兄(近くに祖父母居住)

<食事での姿>

乳児期から食事に対する意欲が薄い R。3歳頃から「…食べない」「…いらぬ」の言葉を頻繁に発するようになる。現在も「一緒に食べよう」と担任以外の大人を誘い、おしゃべりに花を咲かせながら食べるが、食べたい人と食べられないとき、メニューとの関係もあったのか「いらぬ」とランチルームに入らないこともある。自分で量を決め給食を盛り付けるが、一人で食べる時は、ほんのわずかな量も食べられず残す。食べる相手、メニュー等により摂取量が大きく変化。ご飯が嫌いなのか、パンが食べやすいのか、主食はほとんどパンである。

<食事以外の本児の姿>

- ・生活習慣は自立(身体の育ちも身長114.4cm、体重19.6kgと平均値以上である)
- ・理解力、発想力があり、クラスの中でリーダー的存在。
- ・気のあう仲間がいて活発に遊ぶ。
- ・鬼ごっこなど友だちと体を動かすことが好きである。しかし、体力がなく一時休憩なのか、つかまるのが嫌で自分なりの作戦のひとつと考えてか、大好きな鬼ごっこの途中で「疲れたからタイムね」と座って休んでいる姿が多いと感じる。

<異年齢がランチルームで会食>

戸手保育園では「ランチルーム」を設け3歳から5歳まで、自分の食べたい時にランチルームに向かい食事をしています。このランチルームでは3歳は前半は主に担任が指導を行うが、4、5歳は保育士が交代でランチルーム当番として食事指導を行います。

Rに対しても「食事の楽しさを知り、自分から進んで食べてほしい」と願い、職員が試行錯誤しながら関わってきました。

その様子は別紙「保育士の色々な対応」①②に記録されています。

それらを基に話し合っていく中で以下の反省点が見えてきました。

<反省>

- ・何故、担任以外の大人を求めるのか？担任と子どもとの信頼関係がなされていたか？
- ・仲間同士、異年齢からの刺激はどうだったか？子供同士の育ちあいは生かされたか？
- ・食べられないメニューは、食材なのか？調理方法なのか？など本児の観察・記録が徹底されていなかった！
- ・担任の言葉掛けを始め、子どもへの対応が主体性を育む保育か？
- ・職員の本児へのとらえ方が違うのではないか？(別紙のようにいろいろな職員との食事状況があった)

- ・会議の中で話題にされながらも、それぞれが独自に関わり変化を感じながらも、職員間の保育評価とならず、保育の具体的目標や目安が明確にされていなかったのではないかな？
- ・ランチルームでの担任の役割はなにか？など色々と反省点が見えてきました。今ケースRの保護者から「小学校に行ったら、給食が心配」という声が出てきており、話し合う絶好のチャンスと成り家庭とも十分に話し合い、目標を具体化して行きたいと思います。

<今後の課題>

- * みんなで見合うというランチルームのシステムのよさが生かされず、保育内容の“連携”不足が浮き彫りにされました。保護者、保育士、栄養士、調理師、看護師等全員で、連絡ではない、真の連携を進めていく。
- * 食事ばかりに目をやっていたが、多方面から子どもを見ていくことの大事さ。「食事」は食事で独立された行為ではなく人間関係・言語・表現・環境などすべての側面と連動して保育を進める必要性をあらさまに感じさせられ、まさに、問題を明らかにし、個人目標を立て、担任を中心に、全職員で話し合っって共通理解や関わりの出来る、子どもを主体にした計画、実践を積み重ねて保育を進めて行くこと、その為にも評価につながる観察、記録を大切にしていきたいと思います。

保育士のいろいろな対応

保育士	ランチルームでの対応	子どもの姿	省察
A フリー 9月	<p><私は食べて力持ちになる！:気持ちを揺する> 縄跳びしよう！鬼ごっこしよう！相撲しよう！とよく遊びに誘いに来る。「お昼一緒に食べよう！」と誘われ一緒に食べる。この日は「Rに負けないように“さあ食べよう”一杯食べてもりもり力を付けなくっちゃ！」と食べ始め、わざと「Rちゃん食べないで！お願い」の言葉を追加。隣にいた仲良しのMが「R、早く食べちゃえ。俺たち負けないもんなあ」と勧める。食べ終わると「後で勝負しようね。絶対だよ！」と、夕方の勝負を楽しみにしている。勝負では次回の食意欲に向け勝敗率は4:1程度にし、悔しさと喜びをもたず。その後も遊びや食事に誘われるので対応を変えてみた。②「食べる時、ニコニコと食べる人と食べたいな～。これやだ！あれやだ！という人と一緒に食べても、ご飯おいしくないしな～」とつぶやくと「わかったよ」と一言。その日も残さず食べている。③おいしく食べきれん様子もないと感じたときは「私に分けてちょうだい」とさりげない減量で対応する。④食べさせてあげようか？など変化を付けて対応してみた。</p>	<p>「負けないもんな！俺なんか空手だって習ってるんだし、強いんだから」と話を弾ませニコニコしながら食べている。全量摂取で空の器を片付けるとき、捨てる物がないと「あ～良かった。捨てなくてすんだ！」とつぶやきながら片付けている。その後も顔を合わせると遊びの話題が出る。②の言葉掛けは気に食わない様子。③「自分で食べるよ！」と保育士が手にした自分の箸を返してと掌を向けてきた。</p>	<p>「食べよう！」の言葉は使わず逆療法的な働きかけも効果があるとわかる。これがいつまで持続するか？の思いはあったが、関わりや言葉掛けが左右していることを感じる。残飯への心苦しい気持ちや食べさせられることへの恥ずかしさがある。</p>

保育士	ランチルームでの対応	子どもの姿	省察
B 5才担任 ランチルーム当番 10月	<p><u><食べられる量を自分で決めよう！></u></p> <p>・食べられないでいるのにお皿を持っていくとするので、「減らすものがあつたら先生の皿「駿食用の更」に入れてイイヨ。先生は食いしん坊だからいっぱい食べられるんだ〜という」と「えっ」と笑いながら減らしている。</p> <p>・1週間後空の皿を本児用にし、自分で食べられるものや量を盛り付けるようにした。メニューによっては「それだけ？」と思わず言いたくなるような量でも「それは全部食べようね」の約束をし残さないで食事を終えることをさせたいと思った。また、おかずが食べられても、汁物はほとんど残して残飯入れに入れている。気になったので、汁椀に入れるとき具を入れず汁だけを本児に確認を取り1/3程度にし、これも全量飲む約束をし、進める。</p>	<p>汁物も初めて汁椀の中の全量(1/3)を飲めたときはとても嬉しそうに「今日は残さなかったよ」といいながら片付ける。しかし翌日は飲めず残す。おかずは空の皿を見ても「今日はいい」と配膳台から来て規定量の皿を持って行く時もあるが、全量食べられず、最後は結局「お終にした」という。</p>	<p>自分で決めた量は食べる約束と、残さないで食べ終える気持ち良さを知って、次につなげたいと思ったがその日その日で一進一退。食べられないわけではなく気持ちの問題も大きいと感じた。</p>

C 3才担任 ランチルーム当番 2月	<p><u><これだけは食べよう！:ちょっと頑張ってみて！></u></p> <p>1日目＝卵焼きを半量自分で運ぶが「いらぬ」という「これだけは食べよう」と1/2を更に1/3に切って渡すと食べたので「すごね、ちゃんと食べられるじゃない」と誉める。</p> <p>次の日＝食事をしたくない！と訴える。</p> <p>担任とのやりとりの結果、自分の持ってきたパンだけ食べることとなり、6人テーブルでパンだけを食べ、他のこと楽しそうに話をしている。そこで「皆がちゃんと食べるのにどうしてパンだけなのか？」「ぶどう組なのに食べられないのはどうして？おかしい！赤ちゃんは好きなものだけ食べて好きなときに寝て、好きなだけ遊んだよ。好きなものだけ食べるなら赤ちゃんとおんなじだね」と話す。</p>	<p>保育士の言葉に素直に1口だけ食べる。</p> <p>涙をためながら悔しそうな顔で1口を食べると<u>サツサと部屋に戻る。</u></p>	<p>前日対応して食べられていたことから、もう一押し「もう少し頑張るって」欲しいと思う。他の子が頑張っていることを知らせることも大事とおもう。</p>
-----------------------------	---	---	---

保育士	ランチルームでの対応	子どもの姿	省察
<p>D 本児 の 担任 2月末</p>	<p>＜たっぷり遊んだ！＞ ①「ランチルームの手伝いをした時「もうすぐぶどう組だもんね。えらかったね」と誉めると年長の子が「ぶどう組は残さないで食べられるようになるんだよ」という。Rもにこやかに「うん」とうなずいていた。ここで「明日から、なんでも一口ずつ食べようね」の約束をした。 ②クラスで散歩に行こうとすると、帽子をかぶるのを嫌がり泣く女児がいた。全員でその様子を見ながら待つ。やっと帽子をかぶり皆のところへやってきた女児に対しRは「帽子かぶらないなんて赤ちゃんみたいだね。」という。「もうすぐ、ぶどう組の一番大きいお兄さん、お姉さんになるんだもんね」「散歩でも小さい子を連れて行ってあげたり…」と話すとRも「うん」と…他の子も「僕も沢山連れて行ってあげる」などと話している。「あとランチルームでも何でもかっこよく食べ手好き嫌いしないもんね」というとR声のトーンが下がり「わかってるよ」という。「公園で沢山遊んで、お腹ぺこぺこにして帰ってこよう！！」R「たくさんあろぼうね」公園では一緒に鬼ごっこをして走り回った。帰り道は疲れた様子で足取りが重くなる。「お腹空いたね沢山食べようね！」と皆に声をかけるとRが「一緒に食べよう」と誘ってきたので今日は1G(11:30 にランチルームへ入る)で入ろうねと誘いかけた。保育士の席を確保し機嫌よく食べ始めるが「ピーマンか味噌汁かどっちか食べる」と言う。「どちらも食べてね」というとピーマンを食べる。「味噌汁はこれ(にら)が入っているから飲まない」というが「何でも1つは食べよう」とすすめる。</p>	<p>①数日前より、給食はどれでも1口食べようと約束した後なので、保育士と共に1口ずつ皿に載せた。保育士の何でも1つは食べようの言葉に自分で持ってきた全量を飲む「すごいね～」の保育士の言葉にプイとそっぽをむく。味噌汁のニラは結局残す。「この次は頑張ってるね」の<u>声にプイ。</u></p>	<p>何でも食べようとする。やればできる姿があることを自分でも確認した。押したり引いたりしながら対応をするとどれも①口ずつは食べられることがわかった。食べられるもの。どうしても食べられないものを記録していくこととした。 誉められても素直に喜べない本児の気持ち考えると、全量接種が当たり前と保育士が思っているのではないかと感じているからではないかと反省</p>

(2) 事例2

月齢		クラス構成		今年度の目標			
3才8ヶ月		男児 8名 女児11名 対象児童のこれまでの姿		・自分からすすんで意欲的に食事をする。			
<p>前年度は食事への意欲がうすく、誘っても遊びがたつてなかなかなか食べようとしなかつたり、だからと時間をかけながら食事をしていた。ただ散歩にいったり、好きな遊びを十分にしたときは、自分からランチルーム(1才児クラス)に行き、食事を食べる姿もみられた。</p> <p>2才児クラスに進級し、食事をあとから食べるグループにいれたものの食事をなかなか食べたがらない姿が目立つ。</p> <p>そのため、食事を自分から意欲的に食べるようになるにはどのような働きかけをしたらよいか、実践を取り分析をしていきたいと思った。</p>		<p>子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半グループ(11時15分食事開始)、後半グループ(11時45分食事開始)に分かれ食事をしていた。後半グループ6人については幼児と共にくつろぎスペースで遊ぶ。後半グループに食事を誘うが、部屋に戻ろうとしない。 ・くつろぎスペースに誘っても「まだ外で遊ぶ」と言って食事時間まで外で遊ぶこともある。その際部屋に戻ってもなかなか食事に気持ちが向けられず着替えなどをゆっくりおこなっている。 ・食事の時間を本児の気持ちにまかせて12時15分開始にしてみたところ、食事は20分で終わったがそのあとの午睡がずれこんでしまい、なかなか目覚められなかった。 ・7月に入ると、幼児の子に混ざりくつろぎスペースではぬり絵や折り紙を楽しんでいた。 ・食事ではぼーっとしたり、友達とおしゃべりをしてなかなか進まず(事前にこちらがへらしても)再度減らすことは嫌がる。 		<p>配慮・働きかけしたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の時間を後から食べるグループにいれ、遊びに満足してから食事に気持ちが向けられるようにしていく。 ・「食べなければならぬ」というプレッシャーを減らす為に苦手なものを加減していく。 		<p>考察・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事自体はさらいではないようで、食事量を減らさないでも食べ過ぎる事もある。 ・食事の時間を遅くしても本児が納得して「食べよう」と言う気持ちを持たないと、食事の準備などに時間がかかる。 ・いったん「食べよう」と言う気持ちになると食事時間は20分程度で食べきってしまうので、食べる事自体は苦痛ではないと、思われる。 ・本児のリズムに合わせて食事を開始してみたが、後の生活に影響がでてしまったので全面的に 本児に任せるのはまだ早かったように思う。また、この段階では、本児の生活や遊びの様子などを考慮しながら大人が次の活動(この場合は食事)に気持ちよく移ることができるよう働きかけていく。 ・幼児の活動を(くつろぎスペースでみるようになつたので)興味を持ち自分もやってみようと言った様子が出てきた様子。 ・幼児クラスの子ども達とのかかわりはまだ見られないが、遊んでいる様子は気になるようで見ている。 ・くつろぎスペースでの遊びには比較的楽しみにしているようで、入室を嫌がることは少ない。 ・気持ちの切り替えには大人の働きかけが大事であるが、まだ本児はどこまで受け入れてもらえるか担任を試していると思われる。 	
1期	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の現状を観察、把握をする。 						

期	ねらい	子どもの姿	配慮・働きかけたこと	考察・反省
2期	<p>・本児の現状を観察、把握をする。</p>	<p>・幼児のランチルームに興味を示し、入口からのぞいてみる。</p> <p>・幼児の職員から誘われてランチルームで食事をするが量は食べられずかなり減らしてもらう。しかし、本児は「楽しかった！」と言って帰ってくる。</p> <p>・その後も「ランチルームで食べたい。」と言う姿があり、何度か行って食事をしていた。</p> <p>・プール遊び等思い切りからだを使った遊びや気持ちを発散できるような活動は、最初躊躇していたが、すこしずつ遊びに加わるようになっていく。</p> <p>・主食のご飯が苦手な様子(食べあぐねている)がみられたので、ラップを使っておにぎりにしていくとパクパクたべ始める。</p>	<p>・幼児職員と連携しランチルームで食事をしてみること、楽しく食事をすすめるきっかけを作ってみる。</p> <p>・スキミングなどしながら本児が安心して自分の気持ちを表せるようにしていく。</p>	<p>ランチルームを体験する事で、自分の気持ちをきいてもらい、量を加減してもらう心地よさ普段とは違う異年齢の友達や職員との会話など、本児にとつてよい刺激となった様子。</p> <p>また、食事を自分で最後まで食べるというところまで行かない為、そこはクラスでもっと丁寧に働きかけていく必要があると思われる。</p> <p>・本児について担任だけでなく園長・幼児職員と連携を取り合い、本児の姿を知らせてもらうことが色々な角度から働きかけを考えられるので大切だと思った。</p> <p>・思い切り体を使って遊ぶことで食事のの仕度を嫌がらなくなり、自分からすすんで食べていることから遊びに満足したら食べられることがわかってきた。</p> <p>遊びをどう満足させていくか本児の興味ある遊びを充実させていき「おなかがかすくリズムをつくっていく。</p> <p>・遊びや生活の中でだいぶ自分の気持ちを伝えてくるようになりそれにきちんと応えていくことで、本児には言いにくいことも言えるような関係になってきた。</p>
3期	<p>・充分遊びこみ、おなかがかすくリズムをつくる。</p> <p>・友達や保育士と会話を楽しみながら意欲的に食事をすすめる。</p>	<p>・戸外に出て遊ぶことは好むがどちらかといえば好きな友達を誘ってドラム缶やプールの前のスペースでご飯づくりなどあまり体を動かさず遊びがみられなくなってきた。</p> <p>巧技台をだすなどして体を使った遊びをすすめるきっかけをつくっていくと、友達と一緒に(友達がそちらで遊び始めるとその様子を見て遊びに加わる)体を動かして遊ぶ。</p> <p>・(11月)戸外遊びのときには担任を誘いおいかけてこいたり、友達とおふろマットやござをひいてそこを家にみたててのごっこ遊びをたのしんでいた。</p> <p>動きはそれほど活発に動くわけではないが、2時間以上は園庭で思い切り遊ぶ日々が続く。</p> <p>・なかなか入室しないで遊び続けることもあったが、幼児クラスのランチルーム開始の鐘の音でれもん組も入室すること、食事の後の寝る時間がずれるとなかなか本児も起きられないことを伝えると、鐘の音を聞こえたと入室して自分の支度をすすめる姿がみられる。</p>	<p>・日常の遊びの中で本児と一緒に体をを使った遊びを担任も遊びこんでいき、楽しい経験を共有していったり、「おなかがかすく」という経験につなげていく。</p> <p>・友達との遊びを楽しんでいる姿がみられるので、必要な遊具をそろえたりしていき、思い切り遊びこんでいく。</p>	<p>・本児から「おなかがかすく」という言葉は言わないものの、食事に対しての嫌がる様な姿は以前に比べ少なくなってきた。食事に対する意欲はでてきている。食事に対して、引き続き戸外での遊びを充実させていく。</p>

期	ねらい	子どもの姿	配慮・働きかけたこと	考察・反省
3期	<ul style="list-style-type: none"> ・充分遊びこみ、おなかすがすくりズムをつくる。 ・友達や保育士と会話を楽しみながら意欲的に食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に興味が出てきて給食室をのぞいて匂いかいんだり、食材を話題にしておしゃべりをする。本児も会話を楽しんでいる姿が見られる。 ・全部たべきってはいないが「おかわりしていい？」と、聞いてきたため(本来は全部食べてからおかわりをするという約束)まったり口にしていなかった野菜を「一回たべてみてからね」という約束をしておかわりを出したところ大変喜び食べていた。その時本児は「今日、おかわりしちゃったね。」「また、こんどもおかわりをしよう。」と話していた。 ・「味噌汁は小盛りにしてね。」「パンは3つつたべられるよ。」等自分で汁物・主食の量をきめてその分は食べきっている。汁物の具は残すことがあるものの食べられないでポ一つとしている事が少なくなってきた。時々「これはもつと食べたいな。」と喋っておかわりをすることもあった。 ・「一緒に座ろう。」と好きな友達と一緒に席につき姿が見られる。席が開いていないときはあくまで待って座っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ食事をしている子どもたちと会話ができるように、一つのテーブルに7から8人の子どもが食事をするように(そこに大人がひとりつく)テーブル設定なども変えていった。 ・友達や保育士と一緒に会話を楽しんで、食べている姿をみたりする中で、「これ食べてみよう。」といった意欲につなげていく。 ・食べたい量を言い出しやすい言葉かけをしていき、食べたい量を聞いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者自身が自分の動きやすいように動線を工夫していくことで気持ちにゆとりができて、子どもたち一人ひとりに言葉をかけやすくなった。その分子どもたちからの話も出てきて本児も友達との会話や担任との言葉のやり取りをより楽しむようになった。環境面がいかに影響を及ぼすかということを改めて感じた。 ・本児の「もつと食べたい」という気持ちを尊重したことで食事の中で喜びを感じたり次の意欲へつながっていったので、おかわりをするときの担任の中の基準に縛られず本児を見て考えて対応していく事が大切だと思った。 ・友達への関心や一緒にいたい気持ちも育ってきているので、友達からの刺激でも意欲につながることがあると思われ。 ・自分から進んで食べようという気持ちにならないうと口にしない様子。強い口調でこちらが働きかければ、食べることもあると思われが人間関係ができていれば本児はその人の話を聞き、気持ちや意欲が動くこともわかってきた。 ・本児の気持ちをしっかりと受け止め、人間関係を築いていくことで、本児にとってゆらぐことのない働きかけができると思われ。 ・本質的には食べられない子ではない、ということを確認しあせらず、まずは本児の力を信じて待つことも大切だと感じた。